二〇一四（平成二十六）年度　日本文学科博士論文・修士論文・卒業論文題目一覧

修士論文

『台所太平記』論
—女中列伝　洪　雪嬌

北原武夫と宇野千代—疎開の頃を中心に—　中辻　智子

庄野潤三の描く《晩年》——「貝がらと海の音」から「星に願いを」までの連作をめぐって——　提　みなみ

『こころ』の「自我」を考える
——近代自我史観と同時代の自我感——　陳　玲

安部公房「三つの寓話」論
—その「寓意性」　安尾　太一

つかこうへい「蒲田行進曲」論　渡辺多加史

有島武郎研究
—個人雑誌『泉』掲載小説を中心に—　石井　花奈

メディアとしての大学入試現代文
—共通試験国語科の「現代」とその諸様相　岩崎　祥子

占領期の梅崎春生
——「行き詰まり」のなかで書かれた作品群の研究　渡部　裕太

沈黙を思考する——又吉栄喜、目取真俊、崎山多美を中心に——　仲井眞建一

定番教材の変遷　安藤　隆義

後土御門・後柏原・後奈良天皇主催の着到和歌について　本山八重子

『新古今和歌集』における西行歌の位置づけ—西行の独自性を巡って—　山野　悟

六条御息所の語りの方法—「女」としての特異性をめぐって　蕗谷　雄輝

浜辺黒人の狂歌と狂歌観　袖林麻衣子

近代新漢語の研究　肖　江楽

原因・理由を表す接続表現についての一考察　査　学慧

卒業論文

聖女の葛藤と死　鹿倉　亜美

『土』の描写を読み解く
—描かれた農村の〈現実〉—　大和愛佐美

『鬼畜』についての同時代研究　小髙　崇

久坂葉子　作品研究　倉島　千知

水野仙子の見つめた命　植野　春

あの時代を生きた女性たち
～女性作家の視点からみる戦後の姿～　柳　智淑

凌雲閣の文学作品中における描写の年代による変化　田中　舞

〈エロ・グロ・ナンセンス〉時代における人間性の発露
—『迷路荘の惨劇』に見る書き直しの作用—　野作　浩隆

「無思想人」・大宅壮一の旅—『世界の裏街道を行く』に見る大宅壮一の大衆へのまなざし　平井　裕太

心理ブームからみる恋愛観・結婚観の変遷と文学の関連性　谷　雄太郎

愛とはなにか　舞城王太郎作品から読み取る愛の本質　本永　悠人

『たけくらべ』研究概要
—美登利変貌論争のゆくえ—　新村　拓海

川上未映子『わたくし率 イン 歯ー、または世界』—小説と独我論の融合—　西塔　優里

谷崎潤一郎『卍』論—園子と光子のレズビアニズムんとその表象—　大熊　真史

横溝正史「獄門島」論　加藤明日菜

古事記歌謡を読む　益子　愛衣

貢　麻子

『源氏物語』の朱雀院をめぐって
—劣等感と報復—　廣田　聡美

深化する内大臣—「花のかたはらの深山木」から「松にかかれる藤」へ—　河村　春菜

西鶴作品における遊女の「誠」について
—『諸艶大鑑』を中心に　益田　麻櫻

『御茶ものかたり』の註釈作業
—和歌の考察を中心に—　永盛　晴奈

『御伽草子』と「雀の物語」—雀の軌跡を追う
もう一つの鑑賞法として—　吉村　英悟

『篁山竹林寺縁起絵巻』の特質
—本文と絵を中心に—　大下真理子

福島市飯坂の人々と伝承—佐藤継信・忠信に関わる女性の伝承を中心にして—　佐藤　彬子

中世における首の描かれ方の特徴と変遷　佐々木晴菜

お伽草子の子どもたち　南木　愛美

俵藤太伝説小考——饗応される俵藤太、変容する物語——　熊取谷祥子

『貴船の本地』諸本についての一考察　錦織　朋子